

## 近年日本に水害・突風災害をもたらした対流システム Convective systems causing heavy rainfall and severe wind damage in Japan in recent years

石原 正仁<sup>1\*</sup>  
Masahito Ishihara<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 京都大学 極端気象適応社会教育ユニット

<sup>1</sup> Education Unit for Adaptation to Extreme Weather Conditions and Resilient Society, Kyoto University

わが国では台風・梅雨前線・低気圧など総観規模擾乱を原因とする比較的規模の大きな大雨により甚大な被害がほぼ毎年発生している。また単独ないしは数個の積乱雲をもたらす数 10km<sup>2</sup> 以下の領域での数時間以内の大雨（局地的大雨）による水害が発生し、特に都市域で問題となっている。さらに竜巻をはじめとする突風も局所的であるが大きな被害をもたらしている。それらは監視・予測、防災、情報伝達の分野で大きな課題となっている。

本発表では 2006～2012 年の 7 年間にわが国で発生した水害及び突風災害を対象に、気象場、大雨・突風の特性、被害の規模・特徴によって分類する。次に、各事例について大雨・突風をもたらした対流システムとその構成要素である積乱雲に焦点をあて、降水システムの振舞い、降水システムのタイプ分け、大雨発生に至るメカニズムについて我々の理解度を整理する。これによって、今後、わが国に水害・突風災害をもたらす現象について、気象学的に何に着目して研究し、どのような課題を解決していくべきかについて考察する。

キーワード: 極端気象, 水害, 突風災害, 対流システム

Keywords: extreme weather conditions, flooding damage, severe wind damage, convective system